パートナー
静岡市清水市民活動センター情報誌　2022年10月1日　Vol.117
市民活動はまちの未来を創造する

発行：静岡市清水市民活動センター
指定管理者：NPO法人NPOサポート・しみず
〒424-0943 静岡市清水区港町2-1-1
TEL：054-340-1010
fax：054-351-5530
mail：mail@shimizu-s-center.org
HP：http://shimizu-s-center.org

みんなでまちへ繰り出そう！

まもなくスタート 16周年記念事業

「いいね」でつながる実行委員

やってきました！清水市民活動センター周年事業の季節。

感染症への配慮から開催方法や規模を変えながら実施してきましたが、昨年から実行委員会企画による取り組みが復活しました。

自粛ムードが長引き、市民活動そのものが縮小傾向にある今だからこそ、市民活動センターから元気を発信していきたいと活発な意見が交わされています。

恒例のパネル展や階段展示もおこないますが、今年の目玉は、まちなかでの活動紹介ブース出展です。

地元次郎長通り商店街の協力により、11月20日じろちょうマーケット開催時に市民活動を紹介するコーナーを設けます。

地域のみなさんにＮＰＯの活動を直接伝える絶好の機会。さまざまな分野の市民活動団体が参加する予定です。実行委員会メンバーも、楽しみながら市民活動を知ってもらおうと準備中です。

実行委員会参加団体

NPO法人かっぱらぱ編集室、一般社団法人グリーンパークあさはた、静岡大学地域創造学環、静岡 2.0、清水おやこ劇場、清水海洋少年団、NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡、ビッグイシュー静岡読者会、ミモザの会、認定NPO法人精神障害者生活支援よもぎ会、NPO法人ゆうゆう舎、NPO法人NPOサポート・しみず

リレートーク　港の風 63

Dragonboat／Paddle Sports Club うみひ（以下、うみひ）の代表を務める伊藤裕樹さんが本格的にドラゴンボートの練習を始めたのは、2008年に開催された第１回静岡県ドラゴンボート大会御前崎市長杯の出場を機に艇を購入し大会運営に協力したことが契機でした。

2010年には法人格を取得して「ＮＰＯ法人海猿火組」として活動を展開し、2018年からは『ドラゴンボートやSUPなどのパドルスポーツを通じ、水上で安全に活動をすることを学ぶとともに、アツく！愉しく！健康増進を図るクラブ　うみひ』として多くの団体と繋がりながら事業を進めています。

Dragonboat/Paddle Sports Club うみひ　代表　伊藤裕樹

世代を超えて楽しむ

ドラゴンボートは、ドラマーが叩く太鼓のリズムにあわせてパドラーが漕ぎます。皆の息がぴったり合った時はグングン進みますし、合わない時は進まないといったように創意工夫をしてみんなで目標を達成するといった面白さがあります。

また、大会ではシニアにいたるまでの年代別カテゴリーがあり、年齢に関係なく始められ、無理なく続けることが可能です。実際に団体のメンバーも20代～60代までの幅広い世代が参加しています。また、生活をしている街並みを水上から楽しむこともでき、親子や友だち同士、個人での参加することも可能な間口の広いスポーツです。

うみひは、団体として大会に出場するだけでなく、静岡ドラゴンボート協会の体験会やツアーの開催、運営に協力してきました。

地元イベントとのコラボ

2010年から始まった静岡ドラゴンボート大会ツナカップは、『ビギナーチームからベテランチームまでが楽しめる』ことをコンセプトに、エスパルスドリームプラザ前の特設会場で開催されるドラゴンボートの大会です。

清水港のマグロ水揚げ日本一をＰＲする『清水港まぐろ祭り』のイベントの一環として、当日の優勝賞品はマグロ(！)、参加賞がツナ缶、お弁当もマグロ、というマグロ尽くしの大会でスポーツと魚食文化のコラボといった新しい形を目指しています。

ここでもうみひは、協力団体として競技に参加しながら大会を一緒に盛り上げています。

今年の11月６日には『第12回静岡ドラゴンボート大会ツナカップ』の開催が予定されています。

安心して楽しむために

水上活動をする上で安全の確保は大事です。怪我や事故が発生するとせっかくのスポーツが楽しめなくなってしまいます。

伊藤さんは、日本ドラゴンボート協会のセーフティーアドバイザーとして静岡ドラゴンボート協会や依頼のあった地域で安全講習会の講師を務めています。

また、仕事でもマリンレジャーの安全対策に取り組み、大学院でも海洋スポーツの安全について研究しています。

ドラゴンボートの乗船会などでは、事前説明会の実施、経験のあるスタッフの同乗など、安心して参加ができるよう常に配慮しています。

他分野の団体との連携へ

令和４年は、清水港マグロ祭りとコラボした体験会を数回にわたり実施しています。

４月３日には、「ドラゴンボート×漁食×歴史」をテーマに開催された静岡ドラゴンボート協会主催の「巴川ドラゴンボートツーリング(体験会)」に協力団体として参加しました。

折戸湾から巴川に入り、浜田親水公園までのルート周辺の歴史解説は、清水ふるさとガイド研究会の杉山さんが務めてくださいました。ツーリング後、まぐろ祭り実行委員に用意して頂いたマグロ汁40食はあっという間になくなりました。

このように楽しく他分野の団体と繋がれる企画も、今後展開していきたいと考えています。

パドルスポーツを発信する

ドラゴンボートは、１名のドラマー、10名～20名の漕ぎ手、１名の舵取りで行う競技で、国内のローカルレースから世界選手権など公式レースまであるボート競技で、日本各地の山や川、湖で競技が行われています。

前出の通り、前身団体からのうみひの競技歴は長く、2016年のオーストラリアで開催された第12回アジアドラゴンボート選手権大会では、国内予選を勝抜き、日本代表として参加し、６位の好成績を修めるなど海外でも活躍してきました。

一方で、健康的なスポーツとして誰でも楽しむことができるドラゴンボートやＳＵＰなどを通じ親水活動にも力を注いでいます。季節に合わせたツーリング体験や講習会などを次々に企画し、団体のブログでもその活躍を見ることができます。

https://www.c-sqr.net/c/umihi/reports

「うみひ」は、運動したい方、イベントの企画運営をしたい方など世代を超えて会員を募集しています！

ドラゴンボート・SUP体験 in ドリームプラザ

８月28日、エスパルスドリームプラザ前面海域にてドラゴンボートとＳＵＰの体験乗船会がおこなわれました。

取材を受けながら体験会の運営やSUPのレクチャーに忙しく飛び回る伊藤さんの姿は、まさしく「アツく！愉しく！健康増進」の具現です。

▲ＳＵＰの指導をする伊藤さん

▲エスパルスドリームプラザ前
ヨットハーバーを周回

▲ドラゴンボート体験乗船

▲ＳＵＰ体験会で使用する道具も万全

▲清水まぐろ博のＰＲのため、
まぐろ祭り実行委員会がブース出店

▲ブースでは、おいしそうな
マグロ丼も販売

他セクターとも連携しながら、ドラゴンボートを中心にパドルスポーツの魅力を発信し続けている「うみひ」。

巴川ツーリングのような他分野の団体と連携し、パドルスポーツと地域をつなげていこうという取り組みにも期待が高まります。

（取材　前田）

NPOワンポイント　中間決算の時期です！

４月１日から事業年度が始まったＮＰＯは９月末が年度の折り返しです。この期に決算書類を確認しておきましょう。

- 金種表を作成して９月末の現金残高を確認しましょう。
- 預金通帳の記帳もれはありませんか？　帳簿の残高と一致していますか？
- 未収金はありませんか？
- 未払い金はありませんか？
- 販売用の資産がある団体は、在庫の確認をしましょう。

期の半ばで決算をおこなうことで年度の決算業務が楽になることはもちろんですが、予算と実績を比較して、事業が計画通り進んでいるのか、見直しの必要はないか、確認することができます。

経理担当者だけでなく、理事や活動の中心メンバーも共有し、必要であれば計画や予算を見直して対策を講じることができます。

活動規模の大小にかかわらず、中間決算を機に団体の活動を振り返ってみましょう。

清水市民活動センター16周年記念事業ファイナルイベント　参加者大募集

NPOカフェトーク「市民活動ＮＯＷ！」

今こそ本音で語ろう、自分たちの活動

■日　　時　11月27日(日) 13:30～
■場　　所　清水市民活動センター
■参加費無料　どなたでも参加できます　詳しくは市民活動センターＨＰで

静岡市清水市民活動センター 16th ANNIVERSARY

しみず・ゴレなぁに？ その51

清水区興津は、その昔「清見潟」と呼ばれ風光明媚な土地として知られており、江戸時代には東海道の17番目の宿場町として栄えました。

明治時代になり鉄道が開通すると、温暖な気候で避寒の土地として要人たちの別荘が建てられました。現在は最後の元老と呼ばれた西園寺公望の別荘、「坐漁荘」が復元され、訪れる人に往時の様子を伝えています。

そんな歴史を感じさせる史跡や町並みの残る興津ですが、そのほかにもＰＲポイントがあります。

ＪＲ興津駅界隈を散策すると、「甘味」を販売する店舗が多いことに気づきます。洋菓子店もありますが、和菓子をメインにした商品がいろいろ売られています。

明治期に興津出身の北川勇作氏が機械による製あん技術を確立し、同郷の内藤鉄太郎氏の支援を受け、全国にその技術が普及していきました。北川氏の事業の拠点は関西でしたが、製あん発祥の地として「興津はあんこのふるさと」と呼ばれています。和菓子の店が多いのも納得の歴史で、甘党にはたまらないあんこストリートです。

下は、北川氏とその支援をした内藤氏の誕生した興津承元寺の八幡神社にある二人の功績をたたえる「頌徳碑（しょうとくひ）」です。